

日本海側縦貫物流の現場を見る

中越沖地震で信越本線が不通 - 「直江津以西バス運行」(毘風提案)の現実がここにある



JRの新潟ターミナルからトラックで運ばれてきたコンテナが、いったん直江津港の代行運送基地に下ろされ、積み替えられて黒井駅へ運ばれる。

信越本線の青海川駅の西のはずれが、中越沖地震の際に大きく崩れたことは、その日のうちにマスコミでも報道された。崩落土砂は片付けられたようだが、二次災害の発生が心配される状態で、運休解除には至っていません。この影響で、日本海側を縦貫するJR貨物はどうなっているか。十一日現場を見てきました。

ため、代行基地が必要。トラック便は、2〜3個のコンテナしか積みませんが、一列車ごとに100個のコンテナを数十台のトラックで運んでいます。この代替輸送は、JR貨物にとっては



荷下ろしし、新潟Tまで持ち帰るコンテナを待つトラック。全国から動員されている。

梅田ターミナルまで運ばれます。それが今は、新潟ターミナルでトラックに積み替えられて直江津港の代行運送基地(日本海フェリー跡地)に運ばれ、そこからさらに黒井駅で貨車に積まれます(黒井駅は貨物ターミナル仕様になっていない

大赤字だそうですが、「顧客確保のためにはやむをえない」といいます。
毘風が提起した「並行在来線廃止、バス運行」にするとうなるかという、現実の姿をここに見ることができま



代行運送基地から運ばれたコンテナは、黒井駅で方面別の貨車に積まれて輸送される。黒井駅は、ターミナル仕様になっていない。

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の 市政レポート

2007年8月19日 154
発行 杉本敏宏事務所
上越市東本町5丁目1番38号
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832